

## 乳幼児の保護者に対する公共図書館の支援に関する検討

### サービスや情報提供の実態と課題

児玉岳史

2000年の「子ども読書年」の決議以来、乳幼児の読書活動推進のための取り組みとして、公共図書館における「乳幼児サービス」などが行われているが、実際に乳幼児の保護者が公共図書館から受けているサービスや情報提供の実態、こうした公共図書館の現在の支援に対する課題についてはほとんど明らかになっていない。今後公共図書館が実現可能なサービスや情報提供を検討するためには、公共図書館の乳幼児サービスの利用者だけでなく、非利用者の家庭での読書活動や、図書館、絵本、読み聞かせに関する情報入手やニーズについても検討する必要がある。

そこで、本研究では、図書館が乳幼児の保護者に対して行っている情報発信の実態、図書館の乳幼児サービスの利用状況、乳幼児サービスの利用者とは非利用者の図書館利用に関する情報入手の手段および図書館に対するニーズの違い、乳幼児サービスの利用者とは非利用者の家庭での読書活動の違い、乳幼児サービスの利用者、非利用者両方の、絵本や家庭での読み聞かせに関する情報や子育てに関する情報の入手の実態や今後のニーズの5つを明らかにすることを目的とし、今後公共図書館が提供することが望まれるサービスや情報提供の内容や手段、その課題について検討した。

本研究は、2つの調査から構成されている。調査1では関東圏におけるブックスタートを実施している地域(176地域)の公共図書館のWebページを対象に調査を行い、図書館による情報発信の違いについて検討した。調査2では調査1の結果を元に乳幼児の保護者を対象とした情報が充実している地域としていない地域それぞれから選出した6つの地域の保育園17園に通園中の乳幼児の保護者を対象に調査を行い(533名、回収率52.9%)、公共図書館の乳幼児サービスの利用者とは非利用者それぞれが実際に利用しているサービス、情報提供の内容や手段の実態、今後のニーズについて尋ねた。

本研究では、主に以下のような結果が示された。

調査1では、図書館のWebページでの情報提供について、乳幼児の保護者を対象とした情報が充実している図書館が15館(8.5%)あるのに対し、乳幼児の保護者を対象とした情報が全く掲載されていない図書館が64館(36.3%)あるなど、地域によって図書館から得られる情報に差が見られた。(研究目的)

調査2では、(1)乳幼児サービスを利用している家庭は全体の30%未満であることや、利用されているサービスは図書の貸し出しやおはなし会などが多いこと(研究目的)、(2)乳幼児サービスの利用者のほうが読み聞かせに使用する絵本の選び方について「子どもが興味を示した本」や「保護者自身が子どもの頃に読んだ本」を選んでいる保護者が多いこと(研究目的)、(3)絵本や読み聞かせの情報について、非利用者のほうが「おすすめ絵本」や「読み聞かせの方法やコツ」などの情報を多く利用しており、これらの情報は保育園や公共施設など普段利用する施設から得ることが多いこと、非利用者のニーズとして、他の家庭で行われている読み聞かせや他の家庭に人気の絵本の情報が求められていること(研究目的)などが示された。

以上の結果から、サービスや情報提供の実態と保護者のニーズから課題を検討し、図書館が提供していくことのできる情報提供の内容や手段として、「貸出数の多い絵本や、乳幼児をもつ家庭に人気の絵本などの情報を積極的に発信していく」ことなどを提案した。

今後、これらのサービスや情報提供の実現可能性や、提供する情報の具体的な内容の検討を行い、今後の乳幼児の保護者に対する公共図書館の支援に反映させていく事が望まれる。

(指導教員 鈴木佳苗)